

意見6：・アンケートの結果がすべて高評価であればよいわけではない。保護者との意思疎通の項目は、「わからない」の評価がゼロである。職員の取組がしっかりと理解してもらえていることが分かる。

- ・授業における一人一人の教材・教具の工夫の項目は、学校や教員の努力が伝わっていないのではないか。発信をすれば△（あてはまらない）の評価が少なくなるのではないか。「いじめ」についての発信も同様である。
- ・学校からの情報を広報等で案内をした場合は、学校からの一方通行となるので、それに対して意見をもらえる工夫をしてはどうか。共有できるような改善ができるとよい。共感や不安等、様々な意見をもらえるはずである。
- ・作業学習の授業では、役割分担もあり、園芸班では「さつまいもの食べ方」まで行っており、将来役に立つと感じた。縫製班でも教師が「なぜ？」と反復して深堀りをしていたことが生徒の頭に残っていくと感じた。

意見7：・「わからない」と回答した人は、行事に参加していないのではないか。

- ・学校の発信をキャッチしないで、評価しているように感じる。機会をつくっても、受け手である保護者がタイミングを逃すと伝わらない。
- ・発信は学校が主体性をもってやってもらえば、キャッチされた内容が口コミでも広がっていく。
- ・職員が工夫し、楽しみながら取り組んでいると感じる。児童生徒のパニックにも向き合いながらやっているので、いろいろな人が学校に入りしても児童生徒たちは普段の姿を見せてくれている。

意見8：・心理的な安全が保たれている。職員が疲弊していると子どもに影響があるが、とても笑顔でよい。

質問1：・作業内容は進路に生かすことができるのか。

→所属している作業内容で仕事先を決めるわけではない。興味・関心を踏まえて、仕事をする上での基礎となる学習をしている。本人、保護者の思いを組みとりながら作業班を決めている。所属する班の作業内容を将来につなげるためではなく、どの作業班においても働くための基礎をつくることを大事にしている。

（6）副会長挨拶

7 会議のまとめ

- ・授業参観をとおして、児童生徒の成長について評価をいただいた。また、授業における教師の具体的支援等を知っていただくことができた。
- ・学校運営進捗状況について報告を行い、理解を得た。
- ・学校評価アンケートの結果や分析について、委員の皆様からご意見を多数いただいた。ご意見を十分に踏まえ、次年度の改善方策を検討していく。